

五輪と万博と私の研究(3)

中部空港や愛知万博で調査研究するなかで、マスコミから取材も増えていった。研究室で新聞やテレビでのインタビューを受け、それが職場や名古屋市からも反響があった。愛知万博シリーズで、私の発言が掲載されると、それまで務めていた市の研修会の講師に呼ばれなくなった。とにかく五輪から万博まで、名古屋市立の大学で勤務していることが、なにかと「重圧」となった。

そんな「重圧」に負けないものかと、マスコミでの発言を続けた。写真は朝日新聞 1998年6月10日の論壇「中部空港は万博前にこだわるな」である。当時は朝日論壇に憧れていたこともあり、掲載されたときは嬉しかった。このあと論壇原稿が、朝日の英字新聞にも掲載され、講義資料として活用させてもらった。

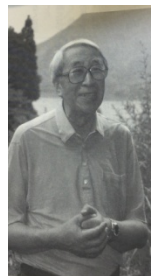


論壇のほかにも、朝日「声」や中日「発言」に投稿して、この頃はタイムリーな話題でもあり、掲載されることも多かった。テレビの取材も、研究室で何回か受けてきた。東海や CBC、メーテレなどの夕方の報道番組が多かった。中部空港の埋立工事が始まったとき、NHK が研究室でインタビューを録画して、ニュース番組で長めに放映したのが忘れられない。

こうして五輪や空港、万博などを調査して論文・著書などをまとめてきたが、多くの著名な先生方と活動を共にして、先生から多くのことを学ばせてもらった。

五輪では、何とんでも名古屋大(当時)の水田洋先生である。『反オリンピック宣言』に長めの論文を書かせてもらった。水田先生と京都までご一緒する機会があり、車中で名古屋五輪誘致について話したこともある。愛知万博を含めて、愛知教育大の影山健先生のこと忘れられない。五輪やスポーツに関わる諸問題について、先生から学んだ。

空港問題では、名古屋大の西條八東先生にお世話になった。西條先生らと伊勢湾・三河湾を漁船に乗り、現地調査したこと、空港問題で私の朝日「声」投書に激励の手紙をいただいたことなどが記憶に残る。先生から研究者、とりわけ自然科学者としての研究のあり方などを学んだ。最後の写真は「愛知の環境と開発を考える市民フォーラム」で挨拶する宇佐見大司先生。法学者として、中部の環境問題に深く関わった先生であり、とくに万博アセスメントでお世話になった。席には水田洋先生の姿も。そのとなりが私であり、このあと基調講演をした。このほかにも多くの先生、常滑や瀬戸、名古屋などの市民の方にお世話になった。あらためて感謝したい。



(2019年9月4日)